

2020年2月13日

各位

会社名：ビリングシステム株式会社  
代表者名：代表取締役社長 江田 敏彦  
(コード番号：3623)  
問合せ先：管理本部長 長谷川 毅  
(TEL：03-5501-4400)

## 特別損失の計上及び業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2019年12月期（2019年1月1日～2019年12月31日）の連結決算及び個別決算において、それぞれ特別損失を計上することとなりました。これを受けて、2019年8月13日に公表いたしました2019年12月期の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の計上について

##### (1) 連結決算におけるのれんの減損損失

当社は、連結子会社であるQCS株式会社の株式取得時に発生したのれんについて、同社の業績が当初策定した計画を下回って推移していたことから、2017年12月期第3四半期にのれんの一部について減損損失を計上いたしました。しかし、その後も計画に対し進捗が遅延していることから、今後の事業計画を再度見直し、回収可能価額について慎重に検討した結果、のれんの未償却残高の全額を減損し、連結決算において66百万円の減損損失を特別損失として計上することといたしました。

##### (2) 個別決算における関係会社株式評価損

「(1) 連結決算におけるのれんの減損損失」と同様の理由により、当社連結子会社であるQCS株式会社の関係会社株式について、関係会社株式評価損78百万円を特別損失として計上することといたしました。

なお、本特別損失は、連結決算において相殺消去されるため、連結業績への影響はありません。

## 2. 業績予想との差異について

### (1) 2019年12月期通期連結業績予想値との差異(2019年1月1日～2019年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,180	143	142	80	12.27
実績値 (B)	2,290	107	107	△24	△3.84
増減額 (B-A)	109	△35	△34	△105	
増減率 (%)	5.0	△24.9	△24.4	△130.4	
(ご参考) 前期実績 (2018年12月期)	2,638	346	345	172	27.05

(注) 2019年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2018年12月期の1株当たり当期純利益については、当該株式分割を考慮した金額を記載しております。

### (1) 2019年12月期通期個別業績予想値との差異(2019年1月1日～2019年12月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,981	136	88	13.42
実績値 (B)	2,011	131	3	0.58
増減額 (B-A)	29	△4	△84	
増減率 (%)	1.5	△3.5	△95.8	
(ご参考) 前期実績 (2018年12月期)	2,362	304	153	24.15

(注) 2019年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2018年12月期の1株当たり当期純利益については、当該株式分割を考慮した金額を記載しております。

#### 差異の理由

##### ① 連結業績予想との差異の理由

収納代行サービスや送金サポートサービス等の売上が順調に推移したため、売上高は前回予想を上回る結果となりました。一方、連結子会社であるFinGo株式会社の電子マネー対応シンクライアント型決済端末の販売については、前回業績予想修正時に、事業計画の見直しを行い、また駐車場精算機やコインランドリーなど、飲料自販機以外の販売に向けた開発も進めてまいりましたが、納期が翌期へ後ろ倒しとなる案件が多く、このため、営業利益、経常利益は前回予想を下回りました。

また、「1. 特別損失の計上について(1)」に記載のとおり、減損損失を特別損失に計上したため、親会社株主に帰属する当期純利益も、前回予想を下回る結果となっております。

② 個別業績予想との差異の理由

収納代行サービスや送金サポートサービス等の売上が順調に推移したため、売上高は前回予想を上回る結果となりました。一方、PayB/スマホマルチ決済関連の開発費用が増加したことなどから、経常利益は前回予想を下回りました。また、「1. 特別損失の計上について(2)」に記載のとおり、関係会社株式評価損を特別損失に計上したため当期純利益は前回予想を下回る結果となっております。

3. 配当金の予想について

上述のとおり、通期の業績は下方修正いたしますが、今回公表の特別損失は一時的かつ非現金支出費用であることに加え、当社のキャッシュ・フロー及び現預金の状況等を総合的に勘案した結果、2019年12月期の配当金につきましては、今回の業績修正に伴う変更はせず、1株当たり8.75円を予定しております。

以 上